

ストレス対処を支援

会員企業の従業員向け

eラーニング方式導入

日本小型工作機械工業会(東京都港区、清水哲会長、03・3431・5054)は、会員企業向けに従業員のメンタルヘルスクアを支援する教育プログラムの運営を始めた。利用者は精神疾患の予防につながるストレスマネジメントをeラーニング方式で学習できる。業界では受注が増え、従業員一人当たりの負担が増加傾向にある。業界を挙げてメンタルヘルス対策に取り組む。

同工業会はメンタルヘルスサービスを手がけるEAP総研(東京都千代田区)の「ストレスマネジメントeラーニング」を導入した。会員企業の従業員は、同工業会のホームページにある専用ページで利用できる。eラーニング形式なので、時間や場所を問わずに自分のペースで学習できる。家族や海外駐在員が学習できるのも利点だ。

利用者は基礎知識編と実践編を通して、ストレスに対しての効果的な対処法や向き合い方を学ぶ。本人だけでなく、ス

機械・ロボット

トレスを抱えた部下や同僚への対処の仕方も学習できる。また、家族の不安解消編も用意した。子育ての悩みや家庭内コミュニケーション、うつ病など従業員の精神疾患への増加が社会問題

ユニケーション、家族の精神疾患についての対処法を学ぶ。

化している。そこでメンタルヘルスの研修会を開く企業も増えている。ただ、研修会だと時間が合わずに参加できない従業員も多かった。学習しやすいeラーニング方式の教育プログラムなので、効果的なメンタルヘルスクアの実践が期待できる。